

令和3年度 第1回 介護福祉学科 教育課程編成委員会 報告書

日時：令和3年8月5日（木）10：00～11：30

場所：zoom形式

参加者名

委員 大久保 佳世（社会福祉法人はるび 特別養護老人ホームはるびの郷施設長）

委員 佐々木 幸（日本介護福祉学会・日本社会福祉学会）

教員 石川 秀志（教務部長 兼 介護福祉学科総括学科長）

教員 細野 真代（介護福祉学科学科長）

教員 岡本 啓介（介護福祉学科教員）

職員 星 朋美（教務課係長）

職員 鈴木 慶紀（教務課）

議題：

1、はじめに

冒頭、司会の細野より、前年度から引き継ぐ協議内容の確認があった。その中で、学生のモチベーション向上が課題に挙げられたため、今年度はこれを中心に教育内容検討していく。

2、モチベーション向上のための具体的取り組みについて

[目指すべき教育到達点]

- ・ 国家試験合格
- ・ 就職率 100%

[教育到達点の課題]

日本人：高卒の学生は意欲があるが、職業訓練生は資格だけ取りたい学生が多く、意識が就職に向いていないこと。

留学生：留学生の合格率アップが鍵となるが、留学生は就職先が決まっている学生が多く、その安心感から学習意欲が低下していること。

[検討事項]

介護福祉士により興味を向かせるための仕掛けと、クラスのモチベーション向上が必要であるため、その具体的な取り組みについての検討。

岡本)

モチベーションの向上を図るため、現在以下の特別講義の実施を考えているが、ご意見をいただきたい。

①介護現場からの提言

現役の介護福祉士、施設長、事業所管理者、卒業生等から介護の魅力を伝えてもらう。

②実績のある講演者の招聘

介護を経験してきた有名人、介護事業、施設改革等を売りにしている有名人

③最新の介護事業に関する紹介等

教科書に載っていないシーティング研修、VR 認知症体験、他学科やグループ校との多職種連携

石川)

他学科やグループ校との連携ができることは、当校の特徴でもあり、これを可能にするためのカリキュラム編成もしなければならない。

[各出席者からの意見]

佐々木委員)

介養協でも留学生のモチベーション低下が問題視されている。特別講義については、実施できるのであれば、課題解決につながると思われる。

ただ、社会問題として、介護と介護福祉士の魅力が明確になっておらず、介護福祉士の魅力が伝わりきれず、介護福祉士が増えていない状況でもある。

社会全体で、社会とのつながりや介護福祉士だからこそ見られるものを示していかなければ、介護人材が増えていかない現状もある。

大久保委員)

介護の魅力は「利用者の関わり」が7割と大半を占めており、そのリアルを伝えるのは、1、2年目の介護福祉士が良いだろう。

多職種連携については、いかに相手の専門性を認められるかが肝心なところである。

しかし、現場は様々なケースがあり、一緒にどう解決していくかが見えにくい部分がある。

佐々木委員)

他校では、理学療法士・作業療法士・介護福祉学科の合同授業があり、学科混合でグループになって研究成果を発表する授業があった。これは非常に良く、学生は専門職チームの中での立ち位置や役割を知ることができるので効果的だった。

3、実習について

[検討事項]

昨年と今年にはコロナの影響により、実習の多くが学内実習に代替になっている。学生にはなるべく現場実習をさせたい。そのため、コロナ禍でも現場実習ができる方法についての検討。

細野)

学生に介護の魅力伝えるためには、利用者との関わりである実習が欠かせない。しかし現在はコロナ禍で、例年とは異なり学内実習に代替していることもある。他校や実習施設で行なっている工夫等はあるか。

石川)

現場での実践体験の気づきや、学びを深めるためのご意見をいただきたい。

[各出席者からの意見]

大久保委員)

実習は、未来の介護福祉士育成で必要なことであるが、コロナ禍のため受け入れるかどうかのジレンマがある。ただ今後は新型コロナの対応や、実習生受け入れを可能にする体制を整えるのは、施設側の責務である。

佐々木委員)

アセスメントであれば、現場に行けると考える。利用者との関わりは、介助等で密接に関わるだけでなく、利用者の様子をみたり、少し関わるだけで信頼関係を作っていくことも可能。それを実習の一部として行うことも良いだろう。

この内容として、学生は、現場に行った結果を振り返って、介護計画を作り、それを現場の実習指導者に送る。実習指導者は、みていた利用者のことが書けているかの確認等をする。

まとめ

- ・介護福祉学科の目標は、国家試験の合格率アップと就職率 100%である。しかし、職業訓練生や留学生は、学業に対するモチベーションが低下していることが課題。そのため、モチベーション向上を図るため、特別講義を行っていきたい。

特別講義は、1.2年目の介護福祉士の招聘や、他学科やグループ校との多職種連携であれば、効果が期待できるため検討する。

- ・実習について、昨年と今年にはコロナ禍のため学内実習に代替しており、例年とは異なる実習形態になっている。養成校として、座学、演習、実践の場である実習のあり方について話し合われた。

介護実習は、利用者と密接に関わるだけでなく、アセスメントも重要である。そのため、コロナ禍での現場実習は、利用者に関わった結果のアセスメントを実習担当者に確認してもらうことでも可能である。これを基に現場実習を可能にする工夫を引き続き検討していく。

以上